



セグメントルーティングマイクロループ回避について

マイクロループは、トポロジの変更（リンクダウン、リンクアップ、またはメトリック変更イベント）後にネットワークで発生する短いパケットループです。マイクロループは、ネットワーク内の異なるノードの非同時コンバージェンスによって引き起こされます。ノードが収束し、まだ収束していないネイバーノードにトラフィックを送信すると、これら2つのノード間でトラフィックがループし、パケット損失、ジッター、および順不同パケットが発生する可能性があります。

セグメントルーティングマイクロループ回避機能は、トポロジの変更後にマイクロループが発生する可能性を検出します。新しいトポロジでマイクロループが発生する可能性がある場合、ノードはセグメントのリストを使用して宛先へのループフリーSR-TEポリシーパスを作成します。RIB更新遅延タイマーの有効期限が切れた後、SR-TEポリシーは通常の転送パスに置き換えられます。

- [IS-IS 向けセグメントルーティングマイクロループ回避の設定（1 ページ）](#)

IS-IS 向けセグメントルーティングマイクロループ回避の設定

このタスクでは、セグメントルーティングマイクロループ回避を有効にし、IS-IS のルーティング情報ベース（RIB）更新遅延値を設定する方法について説明します。

始める前に

次のトポロジ要件を満たしていることを確認してください。

- ルータ インターフェイスがトポロジごとに設定されている。
- ルータが IS-IS で設定されている。
- IS-IS のセグメントルーティングが設定されている。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure	
ステップ 2	router isis instance-id 例 : RP/0/RP0/CPU0:router(config)# router isis 1	指定したルーティングインスタンスの IS-IS ルーティングをイネーブルにし、ルータをルータ コンフィギュレーションモードにします。 is-type ルータ コンフィギュレーション コマンドを使用して、特定のルーティングインスタンスによって実行されるルーティングのレベルを変更できます。
ステップ 3	address-family ipv4 [unicast] 例 : RP/0/RP0/CPU0:router(config-isis)# address-family ipv4 unicast	IPv4 アドレス ファミリを指定し、ルータ アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	microloop avoidance segment-routing 例 : RP/0/RP0/CPU0:router(config-isis-af)# microloop avoidance segment-routing	セグメントルーティングマイクロループ回避を有効にします。
ステップ 5	microloop avoidance rib-update-delay delay-time 例 : RP/0/RP0/CPU0:router(config-isis-af)# microloop avoidance rib-update-delay 3000	転送テーブルを更新する前に、ノードがマイクロループ回避ポリシーを使用する時間を指定します。 <i>delay-time</i> の単位はミリ秒です。値の範囲は 1 ~ 60000 です。デフォルト値は 5000 です。